

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター三和担当圏域レベル 担当圏域レベル）開催報告書	
1 開催日時	令和 6 年 2 月 13 日（木） 9 時 30 分 ～ 11 時 00 分
2 開催場所	飯田市民サービスセンター A・B講座室
3 参加者	21名 委員 8 名（飯田地区4名、白脇地区5名）、関係機関5名、事務局5名
4 協議の内容	1.開会 2.会長挨拶 飯田・白脇地区生活支援体制づくり協議体 会長 3.協議紹介 ① 前回の振り返り SCより、令和6年度 第1回三和圏域生活支援体制づくり協議体について報告した。 ②【情報提供】 ・「飯田地区民生委員・児童委員の把握している地域の状況について」 聞き取り調査から考えた事 SCより、飯田地区民児協(R6.6.17)にて民生委員・児童委員が把握している地域の状況について聞き取り調査を行った。その聞き取り調査で挙げられた意見から、市社協より、飯田地区の良い所、今後課題と考えられることを共有した。 ①昔ながらの親族・地域とのつながり、助け合いが深い一方、新しく移り住んだ方とのつながりが希薄している。 ②比較的買い物場所、交通公共機関が充実している一方、移動等課題がある人を見つけにくいのではないか。 ③情報格差について:(飯田地区に限らず)高齢者の中でもインターネットを操作できる・できない差が大きい。 ・可美ボランティア講座について 紹介 CSWより可美ボランティア講座について報告をした。 白脇地区が「中学生を交えた活動」をテーマにしている為、参考とした。 ③【意見交換】各地区における今後の取組について 地区ごとに分かれ、グループで意見交換を行った。 【飯田地区】 飯田地区は、公的なサービス・有料サービスを始め介護事業所や関係機関が行うサービス、その他インフォーマルな社会資源、地域の助け合いエピソード等について話し合った。 方法:意見が出た事を付箋に記入し、R3 年度に作成した地図を使い、そこに貼っていくよう

にした。

◎スーパー…

- ・重たい荷物を届けてくれる。(高齢者は、自分で買い物に行く場合重たい荷物が負担になっているのではないか)
- ・自治会が、スーパーに交渉し、検討された結果、歩行者通路及び出入口の設置がされた。背景として、つまずいて転びそうになったりするような危険で不便な状況があった。住民の思いとスーパーの協力により、出入口の設置へと繋がった。
- ・デイサービスでのプラスαの対応…
朝食の提供、夕食(弁当)を持たせてくれたり、買い物代行を行っていたりする事業所がある。
- ・訪問サービス…
保険外サービスとして、買い物、お墓参り、旅行、外食等サポートに対応するところもある。
- ・便利屋…
介護保険で出来ない自費サービスを中心に支援を行っている。
- ・診療所…
訪問診療してくれる地域資源。
- ・個人宅の家に弁当の配食(本当は団体に注文だが、個人でも頼める)配達のついでに宅配している様子。
- ・高齢者を対象に割引サービスがある。見守り効果にもなっている。近所で頼んでいる場合もあるので、集まる場、交流の場にもなっている。
- ・障害事業所で草取りを依頼するようにしている。
- ・送迎している美容院がある(送っていくと、帰りは、送ってくれる)
- ・無人野菜販売所
- ・大塚・新貝・鶴見町…
- ・使用しなくなった畑を農家法人に貸すと、草取り等手入れをしてくれる
- ・市民農園。町内にいくつかある(集いの場になる)
- ・青屋→和田方面
南側→芳川方面と買い物など生活範囲が分けられる。

【白脇地区】

■今後中学生をどのように巻き込んでいくのか？

- ・今までは白脇まつりや冬フェスタに5～6名のボランティアとして参加だった。去年は学級閉鎖の関係で不参加だったが、43名が出席予定だった。
- ・大きな行事等には連携を取ることが出来ている。
- ・最近では自治会単位の祭りにも参加をしない世帯もいるので課題に感じている。
- ・可美地区で行われたボランティア養成講座でも中学生がグループワークに参加。地域に対して何かやってみたいと考えている子もいた。
➡ただし何をして良いのか高齢者と繋げていくためにも一緒に考える機会を作ってみた方が良いと思われる。
- ・シニアクラブと中学生のつながりが無い。(年齢差)
- ・シニアクラブのメンバーは比較的に地域活動に参加をしているがメンバーが減少もしている。
- ・子ども達も習い事や部活で忙しいのではないかな？
忙しいと思うが心を育む活動・地域活動を楽しかった思い出・他人から感謝されるような体験があれば地域活動に参加しやすくなるのでは。
自主的に参加を促せば今後の地域活動の担い手になれる可能性もある。
- ・災害時には中学生も大きな力を発揮する、平時の時から繋がりを作っていくことが大切。高齢者達を元気づけるパワーもあるように感じる。

- ・じいじばあば食堂への参加者として高齢者との関りを持っていただくようにする。ゆくゆくは何か講師を行っていただく等の役割を持っていただいても良いかもしれない。
地域の居場所で顔見知りになっていただくことで助け合いが出来る関係性を少しずつだ
が築いていくことが出来るのではないかな。
 - ・中学生にもクラブ活動に力を入れている子もいるように思う。
文化系の部活の子達に地域で活躍できる居場所を用意出来ると良いかも。
- ※中学生の地域での関りを考えていく際に中学生側の意見を伺う必要がある。
学生が求めていることは何かという点についても聞くことが出来れば今後の地域活動に
も参加がしやすいと思われる。
- そのため再度調整をして中学生とともに考える会を令和7年度中に行う。
令和7年の第1回三和圏域協議体会議では開催日程等を含めて中学生とともに考える
会に中学生側の参加者としてどのような人材に参加をして欲しいのかを含めて協議を行
う。

4.連絡事項

年度替わりによる所属や役職変更、協議体委員の継続に関わる調査について

8.閉会

飯田・白脇地区生活体制づくり協議体 副会長

5 今後の見通し・ 必要な対応

今回の協議体では、情報提供として、飯田地区が様々な社会資源サービスについて話し合
っているため、飯田地区民生・児童委員からの聞き取り調査をもう一度報告する。また、白脇
地区が中学生を交えた交流について話し合っている為、可美ボランティア講座について紹介
をした。

「白脇地区」

- ・中学生をどのような所に巻き込んでいくか。
- ・中学生と共に考える会について

「飯田地区」

- ・公的なサービス・有料サービスを始め介護事業所や関係機関が行うサービス、その他イ
ンフォーマルな社会資源、地域の助け合いエピソード等について話し合った。

白脇地区は、中学生との調整を進めていく。飯田地区は、地域住民ならではの社会資源を聞
いたが不明確な点もあり、今後も情報収集していく。